

発行 大町市社会福祉協議会内
大町市ボランティアセンター
長野県大町市大町1129
(東町 総合福祉センター内)
TEL (0261) 22-1501
FAX (0261) 22-7071
URL <http://www.omachishakyo.org/>

おおまち

ボランティアニュース

登録ボランティアグループ紹介

新しい編物サークル ②の23

立ち上げのきっかけは...

今年の春、仲間と「どこか気楽に編み物できる所はないか」と思っていたところ、大町市総合福祉センター内に使用できる部屋があることを社協の広報紙で知り、早速社協を訪ねました。その時、総合福祉センターにある編み物の美しさにみんなびっくりして、「自分たちも作ってみたい」と意見が合いました。その編み物は、88ボランティアの皆さんの作品だとわかり、直接会ってみると以前からの知り合いがいて、モーターのひざ掛け作りの手伝いも兼ねて、編み物をしようと話がまとまり、ボランティアグループとして登録して活動を始めることになりました。

名前の由来は...

今までは、自分の物ばかり編んでいたのので、心機一転して「新しい」という言葉を付けました。

どんな活動をしていますか...

まずは、彩りのきれいに圧倒された、モーターのひざ掛けと座布団を作ってみました。88ボランティアの皆さんと共同の毛糸を使って思い思いに作品にしています。

毎月第2・第4金曜日の午後1時30分から4時まで集って編んでいます。個人で編みたいベストや帽子なども作っていますが、障がい者作品の展示販売会にも協力しようと考えています。

メッセージ

社協には、市民の皆さんから届けられた使いかけの毛糸などもたくさんあります。それらを作品に仕上げることも含めて、編み物好きな方、気軽にお出掛けください。

誰もが住み慣れた地域で安心して生活し続けていくために、地域で活躍するボランティアの役割は、多様なものになってきています。地域づくりの担い手として活動していただくため、交流会時でのコミュニケーションのきっかけや会員同士の親睦づくりを目的に研修会を開催します。今回は、すぐ役立つ歌体操を中心に教えていただきます。



昨年のリーダー研。笑顔がいっぱい

まちに笑顔を

お互いさまのまちづくり



歌体操は、歌や音楽に合わせて体を動かします。脳のトレーニングと有酸素運動2つのことを同時にやることで、脳が活性化するため認知症予防や健康維持に効果があるといわれています。

日時 1月28日 木

午後1時30分～3時30分

会場 大町市総合福祉センター 2階 大会議室

講師 種山正子さん

日本レクリエーション協会
公認インストラクター

定員 60人

参加費 無料

持ち物 筆記具、飲み物
動きやすい服装

申し込み・問い合わせ

1月22日(金)までに大町市社協へ
TEL 22-1501 FAX 22-7071

お知らせ

募集締め切り延長

福祉啓発標語

おおまちボランティアニュース170号で募集しました「福祉啓発標語」の募集締め切りを、1月15日(金)まで延長します。

「ふだんのくらしのしあわせ」って視点を変えて見えてきたこと等、お正月の家族団らんの中で、思い付いたことや冬休み中に出掛けて気付いたことなど、標語にしてお寄せください。

提出先・問い合わせ

大町市社会福祉協議会

〒98-0002 大町市大町1129

TEL 22-1501 FAX 22-7071

手話・点字を覚えよう No.103

好きな食べ物はおすしです



① 〈好き〉
親指と人差し指をのどに当て、指先を合わせながら斜め前へおろす

② 〈食べる〉
左手のひらの上で右2指を繰り返し口もとへ

③ 〈すし〉
左親指と他の4指を丸めた手のひらに、右2指を2回当てる



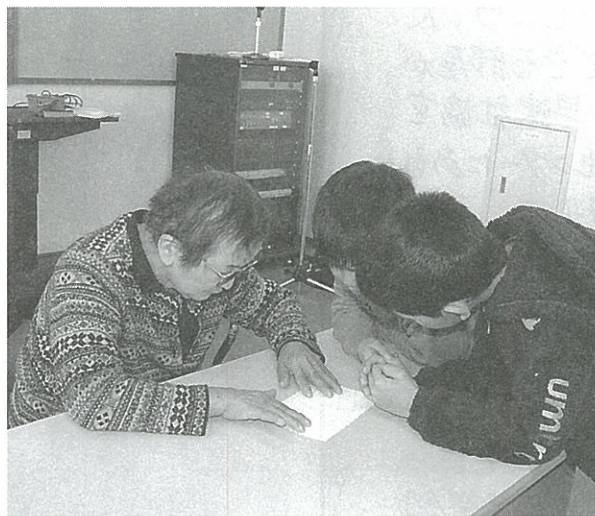
四面

相手の気持ちを知らう

市内学校で 福祉体験盛ん

体験メニュー紹介

市内の小中高等学校では、さまざまな福祉体験が行われています。体験を通してわかることや気付くことがたくさんあります。相手の気持ちだったり、行動だったり。『どうして?』と思うことも、疑似体験することで理解できることもあります。どんな福祉体験を行っているのか、体験の一つを紹介します。小学校4年生の国語では、点字や視覚障害についての単元があります。教科書には、点字の表も付いているのですが、実際に点字ボランティアが学校に行き、点字を教わって点字を打ち



打った点字読めるかな?

打った点字を視覚障がいの方に読んでもらい、生活の様子をお聞きする。また、アイマスクを使って暗い世界を体験し、安全に誘導する方法やどのようにして情報をとるか等を、体験するメニューが行われています。点字の必要性のほかに、誘導体験のときは、『どんな声掛けをしたらいいか難しかった』『怖かったけど、声を掛けてもらってうれしかった』

等の感想もあり、情報を伝えるためのコミュニケーション方法や音の大切さを学ぶことができます。また、当事者と交流することで、さらに理解を深めることができます。お互いを理解して不便さをなくし、誰もが暮らしやすい地域をつくることのできるように、お力添えしています。

学校だけでなく、職場や地域でも活用ください。体験メニューを紹介いたします。

車いす体験・高齢者疑似体験・点字体験・手話体験・アイマスク体験・ガイドヘルプ体験・ユニバーサルデザイン・障がい者スポーツ体験等があります。

問い合わせは、

大町市ボランティアセンター

TEL 22-1501



報告

大北ブロッコ

ボランティア地域活動フォーラム

10月22日、平公民館の講堂で、大北地域で活動しているボランティア70人が参加して開催されました。始めに、『今、求められるボランティア活動』と題して、KT福祉研究所代表松藤和生さんの講演が行われました。ボランティア活動は、誰もが平等に持っている時間を誰かのために使うこと、ボランティアに定年はない。一番大事なのは、『社会性』さらに『先駆性』があればいい。無理に後継者を作らなくても、必要であれば活動は継続していくと話されました。その後グループワークが行われ、『活動を進めるための課題は?』なぜ、活動の参加者

後継者が育たないのか?等について熱心に意見交換が行われました。参加者からは、『ボランティアの本質がわかった』『ユーモアな語り方でわかりやすかった』『これから気楽に活動できそう』との感想がありました。

義援金振り込み報告とお礼

平成27年9月9日~11日にかけて、台風18号の大雨で被害を受けた方がたを支援するための義援金をお願いしたところ、4,220円のご協力をいただき、11月30日に日本赤十字社に送金しました。

楽しいレクリエーション<74>

隠された言葉は何?

1文字から単語を推測するゲームです。似た単語に惑わされないように、正解を見つけて。

準備品

筆記具...チーム数分
厚手のカード...50枚くらい

進め方

A4-チーム



チームで協力して5文字以上の単語を考え、カードに1文字ずつ、平仮名または片仮名で書きます。カードを裏返して順番に並べ、はじめの1文字を見せてヒントを1つだけ与え、他チームに答えてもらいます。

答えはチーム内で相談して1つ言います。

間違っていたら2枚目をめくります。どこをめくるかは出題者側の自由です。

正解が出るまで続け、正解したら交代します。何度か繰り返し、相手チームのカードをめくった数が少ないチームの勝ちになります。

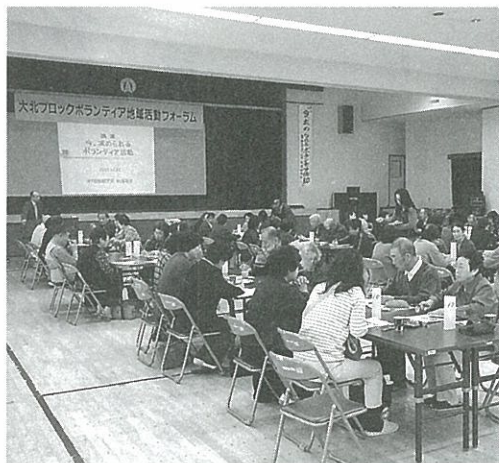
ポイント

文字数があまり少ないとすぐわかってしまうので、5~7文字くらいがよいでしょう。カードは多めに用意しましょう。

バリエーション

1文字目で正解したら100点、2文字目で正解したら50点というように得点を決めてもよいでしょう。

リーダーが問題を出し、参加者全員で答えるようにしてもよいでしょう。ホワイトボードに文字を書いていきます。



熱が入ったグループワーク